

資料 2

令和 6 年度 若手技術者の離職防止に向けた会議について

1 日時：令和 6 年 11 月 1 日（金） 15：00～16：15

2 会場：山梨県立図書館交流ルーム 104

3 内容

（1）令和 6 年度アクションプラン事業の実施状況について

（2）建設産業における若手の離職防止のために

（意見等）

- ・社内での若手ミーティングなどで横のつながりをつくり、悩みを共有している。
- ・同期会（会社負担）で普段話をすることがない他部署の社員とも交流している。
- ・業界団体の新人セミナーで社会人としてのマナーを教えてもらいありがたかった。
- ・上司と一緒に現場で仕事を教えてもらい、数年後に現場を任されるようになった。
- ・仕事の流れが頭に入っていると、現場を任されたときに質問すべき事項が分かる。
- ・マンツーマン指導者の制度で仕事のほか様々な相談に乗ってもらっていた。
- ・新人に積極的に話しかけたり、新人が質問しやすい雰囲気をつくるようにしている。
- ・会社の懇親会は昼食時に開催するほうが若者に好まれる。
- ・業務に必要な資格取得の勉強会への出を支援してほしい（業務時間内、費用）。

（3）やまなし技術者スピリッツについて

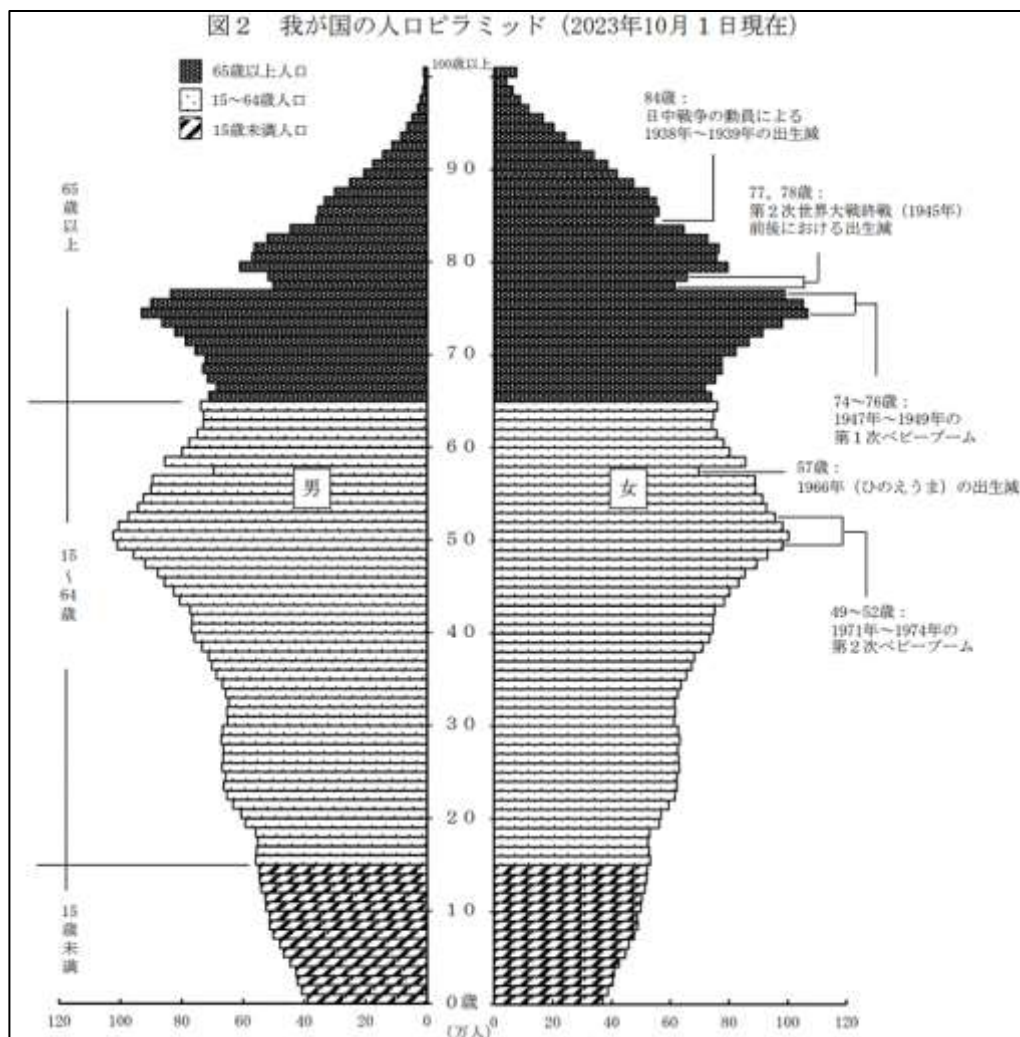
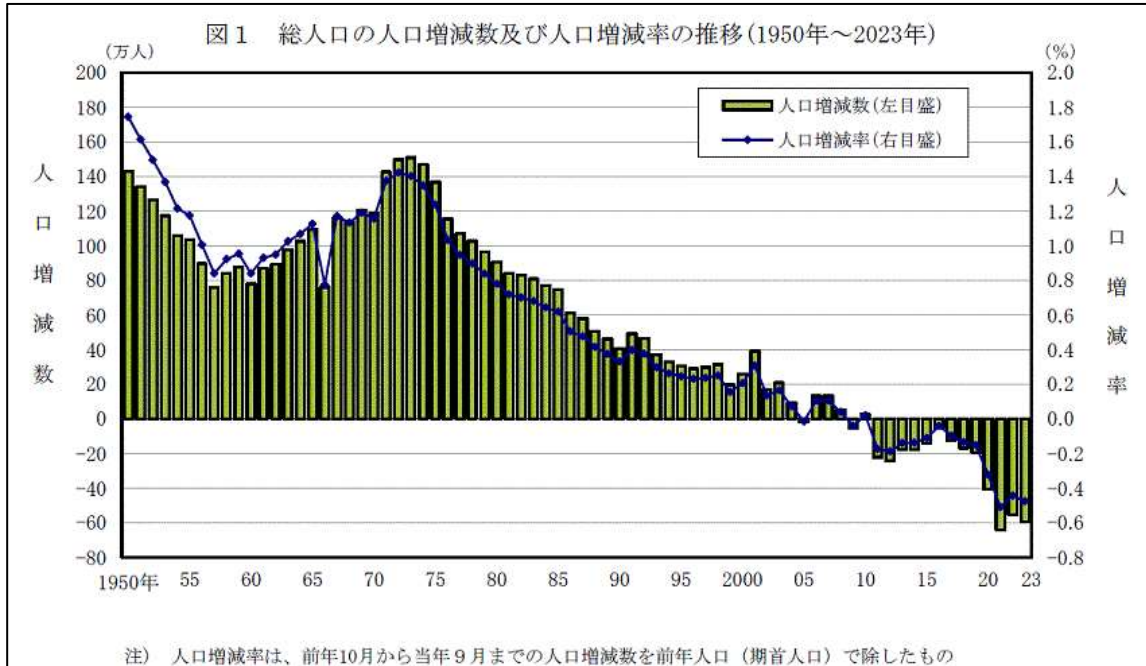
- ・各団体を通じてお願いする予定
- ・年度内 1 件を本会議構成員からお願いする。

（4）その他

- ・Instagram 県土やまなし未来づくりについて説明

建設産業における若手の離職防止のために

前提条件 人口減少社会



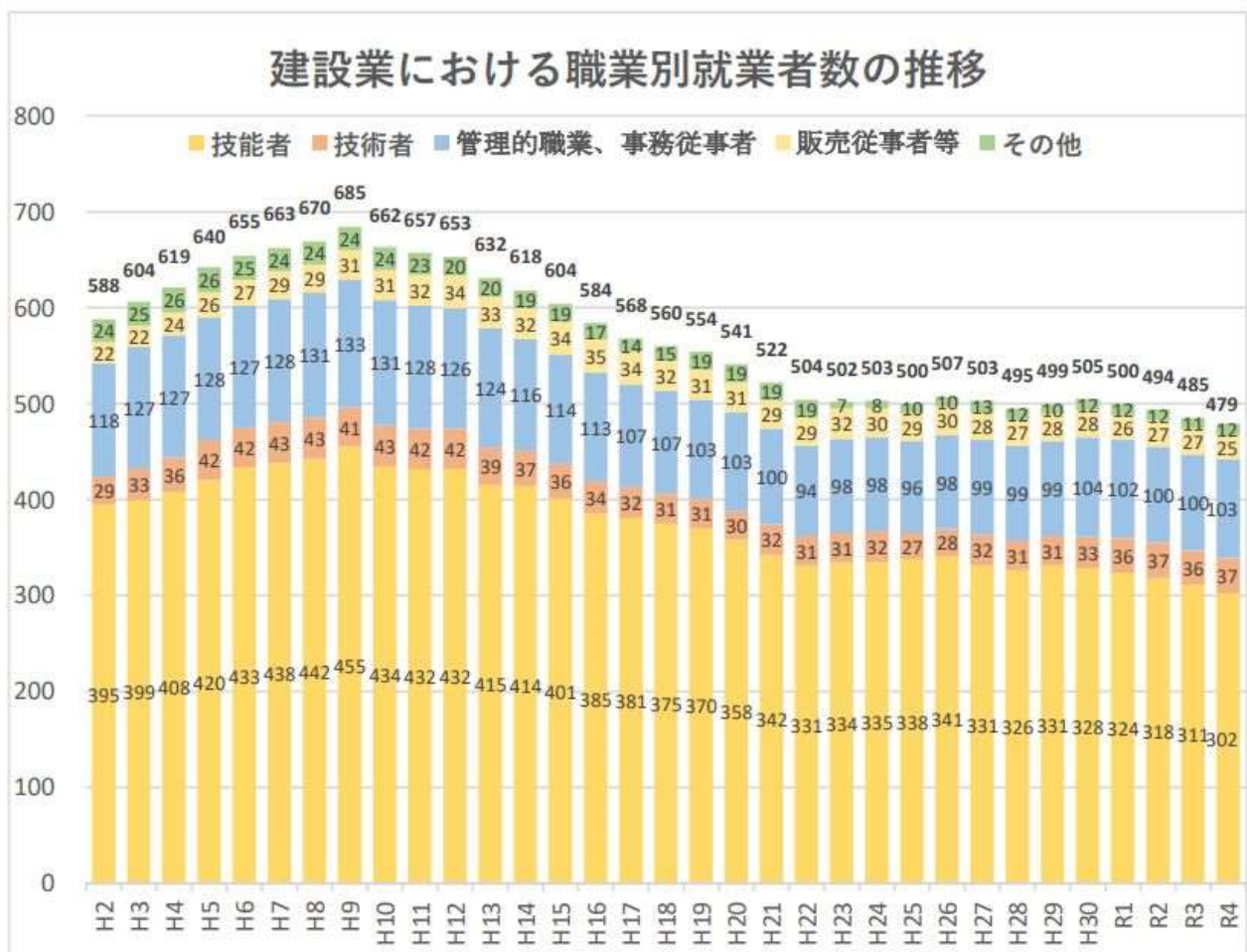
「人口推計(2023年(令和5年)10月1日現在)」(総務省統計局)

技能者等の推移

○建設業就業者： 685万人(H9) → 504万人(H22) → 479万人(R4)

○技術者： 41万人(H9) → 31万人(H22) → 37万人(R4)

○技能者： 455万人(H9) → 331万人(H22) → 302万人(R4)

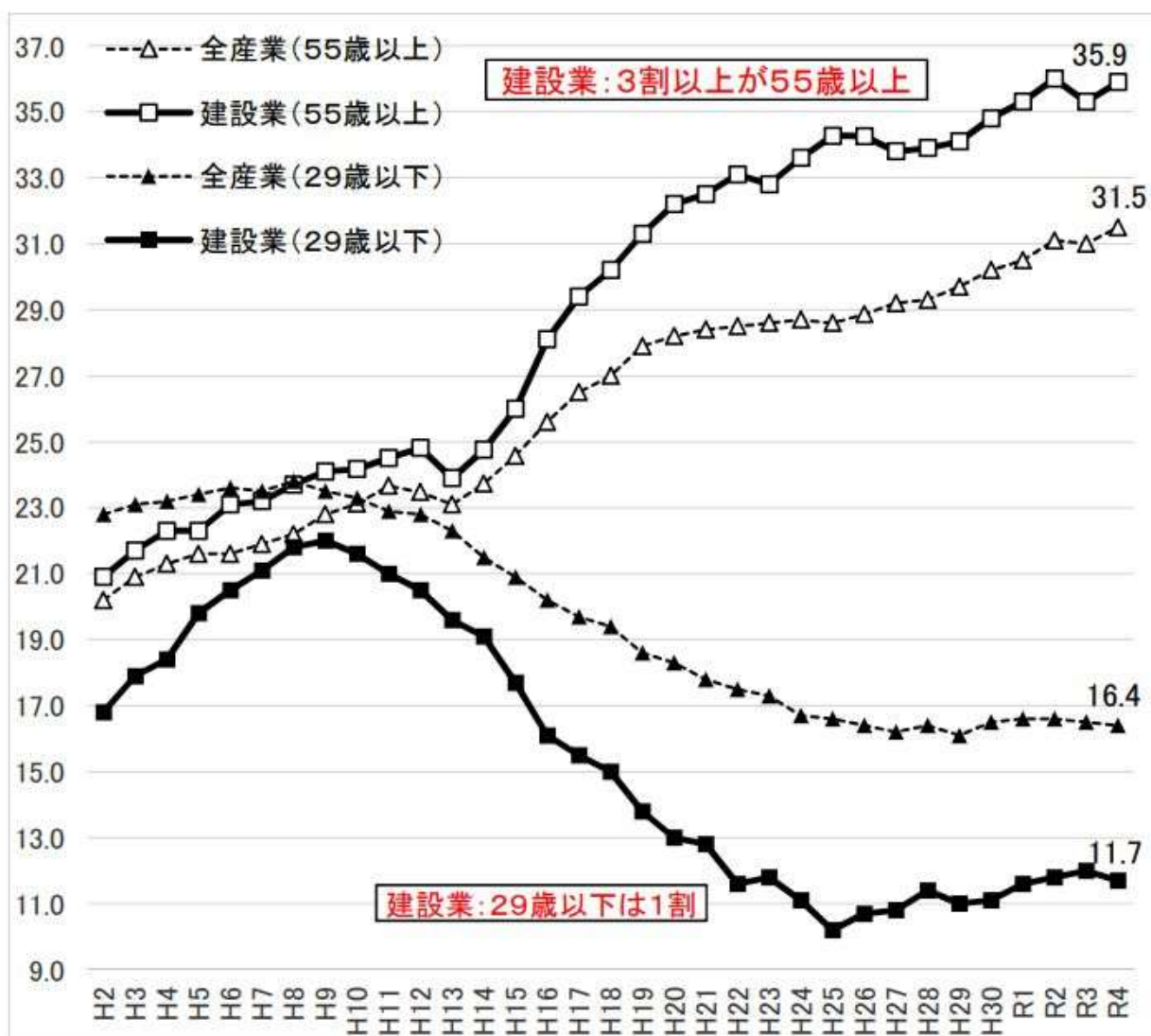


出典：総務省「労働力調査」(暦年平均)を基に国土交通省で算出

(※平成23年データは、東日本大震災の影響により推計値)

建設業就業者の高齢化の進行

- 建設業就業者は、55歳以上が35.9%、29歳以下が11.7%と高齢化が進行し、次世代への技術承継が大きな課題。
 ※実数ベースでは、建設業就業者数のうち令和3年と比較して55歳以上が1万人増加(29歳以下は2万人減少)。

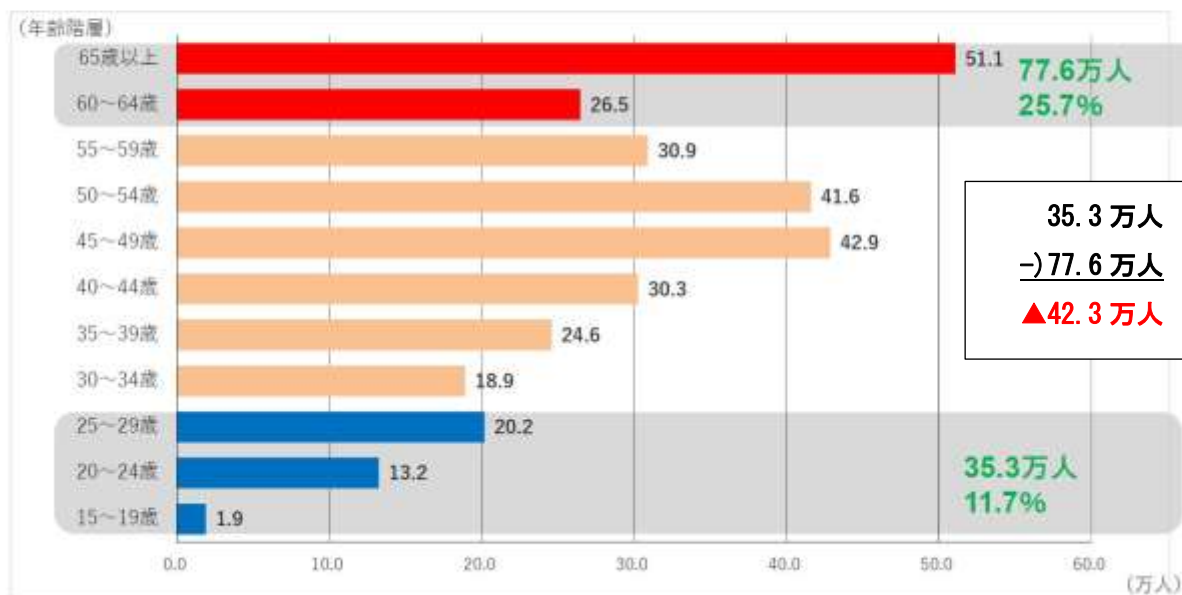


出典: 総務省「労働力調査」(暦年平均)を基に国土交通省で算出
 (※平成23年データは、東日本大震災の影響により推計値)

年齢階層別の建設技能者数

- 60歳以上の技能者は全体の約4分の1(25.7%)を占めており、10年後にはその大半が引退することが見込まれる。
- これからの建設業を支える29歳以下の割合は全体の約12%程度。若年入職者の確保・育成が喫緊の課題。

➡ **担い手の処遇改善、働き方改革、生産性向上**を一体として進めることが必要



出所:総務省「労働力調査」(令和4年平均)をもとに国土交通省で作成

【図表31】 常用の若年技能労働者が定着していない理由
[業種別] [従業員規模別]

